

総合研究所 News

2017年度スピリチュアルケア研究講演会 生老病死に寄り添うたましいのケア ～“いま”を生きること、“これから”を見つめること～ 第1回人生の締めくくりに寄り添う たましいのケア -生と死に向き合うことの現実- 実施結果-アンケート集計結果の概要

心身を病むことにより、健康で元気に過ごしている時には考えもしなかったことで思い悩んだり、不安や孤独にさいなまれることがあります。今年度は、自らや周囲の方の生老病死に寄り添うたましいのケアについて、第1回は、救世軍ブース記念病院チャプレンの西村和江先生にご講演いただきます。

人は生まれた瞬間から死ぬ時まで日々老いていきますが、それはまた日々成長し続けているともいえるでしょう。

そこにどう向き合い寄り添うことができるか、一緒に考えられたらと思います。

日時 2017年7月21日（金）15：15～17：35

場所 聖学院大学ヴェリタス館教授会室

【プログラム】

開会挨拶・司会

田村 綾子

（聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科教授 社会福祉士・精神保健福祉士 日本スピリチュアルケア学会認定スピリチュアルケア師）

講演

西村 和江

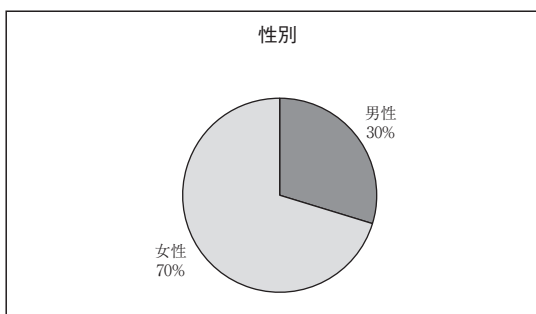
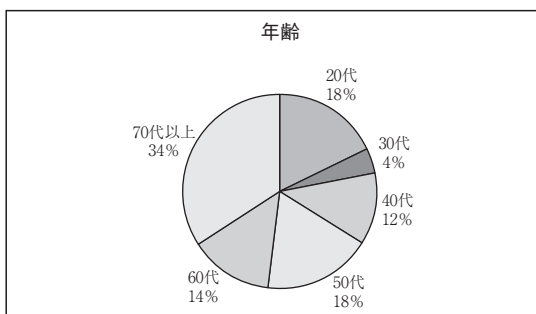
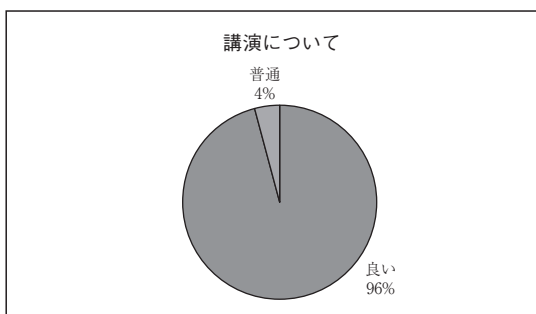
（救世軍ブース記念病院、老人保健施設グレイス、特養恵みの家 チャプレン長）

質疑応答

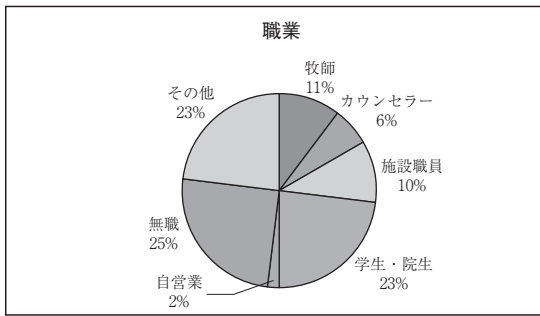
閉会

【結果の概要】

- ・参加者は71名。内、アンケート回答者は51名。
- ・回答者のプロフィールとして、年齢は「70代以上」が最も多かった。性別は女性が7割だった。
- ・講演については、「良い」が96%と大変高い評価を得た。
- ・意見として、「胸に響き豊かな時間を過ごすことができた」「大変良い講演会だった」「もう1回お話を聞きたいくらい」「実際に即した話が良かった」など。

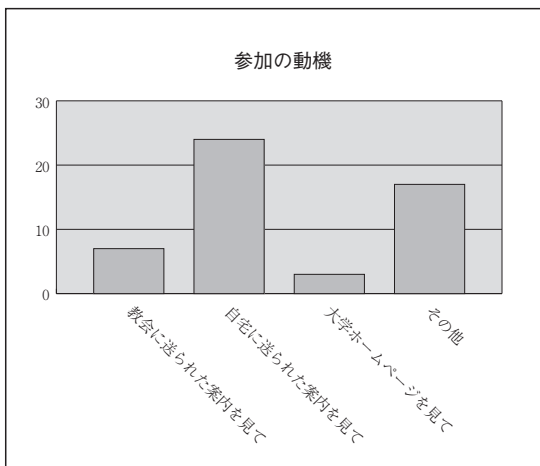


◎参加者のプロフィールとして、年齢は「70代以上」が最も多く34%、次に「20代」「50代」がともに18%だった。性別は女性が70%、男性が30%。



◎職業別では、「無職」が25%で最も多く、「学生・院生」が23%となった。

「その他」の内容として、「保育士」「介護職」「主婦」など。



◎参加の動機として、「自宅に送られた案内を見て」が最も多かった。

「その他」の内容として、「友人の勧め」「授業で知って」「先生の紹介」「職場で知って」。

今後、聞いてみたい講演会やご希望

- ・老人施設のチャプレンとして必要とされる全般について学んでいきたい。
- ・「死の備えについて」「ガン末期患者への対応について」「超高齢者社会を迎えるにあたっての備えについて」など。
- ・命はなぜあるのか、生きるとは何か、について聞いてみたいです。
- ・グリーフケアについて。
- ・今まで何度も講演いただいておりますが、グリーフケアをお願いします。年を重ね友人を亡くし、喪失を強く受けています。よろしく願いいたします。

- ・緩和ケアのスタッフになるにはどのような資格が必要で、何を学ばばいいのか（スピリチュアルケアをしたい）。また、グリーフケアのスタッフになるには、どのような資格が必要か。
- ・若者たちの引きこもり、それを支える母親（苦しみ、悩み）。お互いにどのように抜け出していくことができるのか、解決の糸口が見つければ幸いです。
- ・今後もこのような学びの時がありましたら参加したいと思っています。

自由意見

- ・キリスト教系病院で介護士として務めたとき、ターミナルの患者の病棟にいました。そこで働いていた時、患者は家に帰りただろうと思っていましたが、実際の現実に落ち込んでしまうこともあるのだなと思いました。現在でも最期の人、ターミナルの人に携わりたいという思いは変わらずあるので、どういう形で携わるのがいいのか主の御心を求めながら行っていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・チャプレンは、何をやる人かはよく知らなかったため、どのようなことをしているのかわかりやすかったです。授業でスピリチュアルケアについてのものがあって、内容もよくわからなく、取らなかったけれど、今日のお話でなんとなく分かりました。色々な表現の仕方があるんですね。
- ・チャプレンという言葉は聞いたことはあっても、意味は知らなかったので今回の講演を聴いて、チャプレンと言う意味を知りました。そして様々なケアの仕方があるのだと知りました。
- ・「その人がどういう思いであんなことを言ったのか」「どうすればよかったのか」といったことは誰にも分からないという言葉が印象に残った。ソーシャルワーカーを目指している身として、この言葉は利用者・患者さんを支援する上で必ず付いてくることだと思った。一人よがりにならないように支援していけたら良いと思った。
- ・チャプレンという仕事の内容を当事者から聴く機会が得られて、後半人生を過ごす上での示唆を得た様に感じます。本日のお話を振り返り、配布資料の中のキーワードを再度読み直して考

えたいと思います。

- ・生と死について、スピリチュアルについてより深く知ることができました。将来病院で働くことを希望していますが、病院で働く職員として、人の死に向き合うことがあると思いますが、それをどう受け止めるかを考えていきたいと思いました。
- ・SWになりたいと思っていて、そこに通じるものがあると感じた。利用者や患者の意思だけが本当に正しいのか、家族の思いも汲み入れた方がいいのか考えなければならないのだなと思いました。
- ・これまで関心がなかったスピリチュアルケアの話聞き、新しい視点を学ぶことができた。対人援助における死の恐怖をどう和らげるか、考えたこともない対応にとっても驚きました。今日はありがとうございました。
- ・とても勉強になりました。「できた」「わたくしがやった」と思わないようにしている…というチャプレンの言葉が胸に響きました。
- ・西村先生の講演はわかりやすく、私の胸に響き豊かな時間を過ごすことができ、感謝申し上げます。
- ・現実医療に携わる方からのお話を伺うことができ、とても良かったです。どうもありがとうございました。
- ・大変良い講演会であったと感謝します。7年間にわたる先生のご経験からよくまとまったレジュメを元に、様々な観点からお話を伺うことが出来、大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・とてもわかりやすく良いお話を聞いて、大変学ぶことが多かったです。もう一回先生のお話を聞きたいくらいです。実際に即した話がよかったです(学者でなく)。
- ・私は死後も夢を見られるようなケアがいいと考えていました。誰でも死は未知の世界であり、怖くて不安だと感じています。「天国で会える。一人ではない。」と思いつながり最期を迎えたいです。
- ・とても充実した講演会でした。日々の実践の中からの先生のどう感じ、どう思い、どう話され

たかの生の報告はこちらのたるんだ、思考、感度をピンと張り詰めさせて下さいました。楽しくもありました。

- ・本日は貴重な講義を聴かせていただきありがとうございました。今葬送儀礼の現実で、スッキリしないことが多くありながら参加させていただき、先生のお話で遺族のグリーフケアという役割と再確認できたこと、心より嬉しく思いました。ありがとうございました。
- ・西村先生の明るさが印象的でした。謙遜も素晴らしいと思いました。小生も以前7年間チャプレンをさせて頂いていましたので、共感しました。ありがとうございました。
- ・今回の講演のテーマと内容は非常に良かったです。昨年大病し、臨死体験に近い状態から回復した者にとって、気持ちを整理する多くのヒントをいただき感謝します。
- ・本日のお話を伺い、昨春天国に旅立った夫と共に歩き、共に死に向き合い、その時を迎えた。そして私自身の事を思い、振り返り、今後の自分にとって大変良い機会となり、又周りへの対応のあり方を考える機会となりました。
- ・患者と家族の両方をケアする。じっくりと両方の気持ちを聞くという姿勢を心掛けたいと思いました。
- ・講演を聴いて、後にディスカッションの時間があれば、より講演が深まるのではないのでしょうか。
- ・とても優しい語り口で先生のお人柄が出て良かったです。ありがとうございました。
- ・聴いていて心が温くなる講演でした。癒されました。ありがとうございました。
- ・今日はお話を伺えて良かったです。